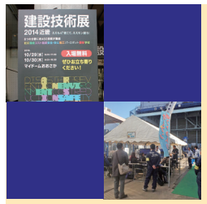


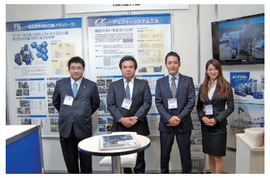
当社のCSR活動

建設業界全体でみると、従業員の高齢化が進む一方で、若手就職者が減少している危機的な状況であります。
魅力ある企業、魅力のある業界を目指して、また当社で働く誇りを感じてもらえる取り組みとして、地域社会に積極的に貢献するとともに、建設業界全体で若手を取り入れる方策を試行錯誤しています。

建設技術展2014に初出展

平成26年10月29日、30日　於：マイドーム大阪

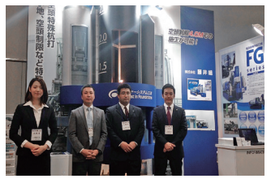
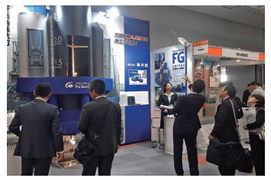
当社独自のアルファーシステム工法及び低空間杭打ち工法（FGシリーズ）をPRする目的で、「建設技術展2014近畿」に当社が初出展いたしました。
来場者は官公庁をはじめ、コンサル各社、ゼネコン各社、各メーカー、大学生、高校生と幅広い分野となっており、初日の来場者数が9,997人、2日目が4,842人と約15,000人の方々が参加されました。
当社ブースにおいても興味を持たれた多くの方がジオラマ模型やパネルを使った説明に耳を傾けていただきました。又、事前に用意したパンフレットも約500部配布することができ、非常に意義のある出展であったと思います。



建設技術展2015に出展

平成27年10月28日、29日　於：マイドーム大阪

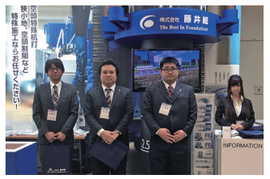
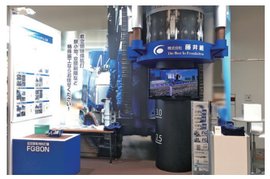
平成26年に引き続き「建設技術展2015近畿」に当社が2年連続の出展をしました。今回は入口すぐのブースという事もあり、小型アルファー機の実寸大模型を製作し展示し、その迫力に多くの来場者からすごい迫力がある、インパクトが大きい等の評価をいただきました。又アメニティにも趣向を凝らして、今治のタオルやうまい棒、マルカワガムといった昔ながらの駄菓子とタイアップしオリジナル駄菓子を来場者の方々に配りました。こちらも特に女性や学生に好評でした。

建設技術展2016に出展

平成28年10月26日、27日　於：マイドーム大阪

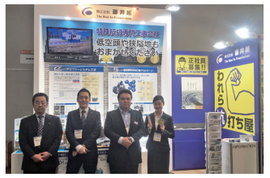
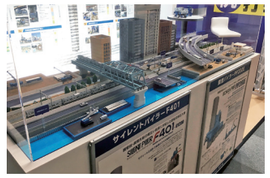
平成27年完成した新型アルファーシステム機FG-80Nの模型を昨年と同様実物大で制作展示し、また動くジオラマを作成し、来場者にわかりやすい展示ブースを心掛けて企画しました。昨年の入口付近とは違い、1Fの一番奥のブースとなりましたが、多くの人に実物大の迫力を感じて頂けたと思います。

建設技術展2017に出展

平成29年10月25日、26日　於：マイドーム大阪

名刺入手者だけで288名の当社ブースへの来場となり、今回、1/150の擬似世界を、Nゲージを用いて作成し、アルファーシステム工法に限らず、当社の施工可能な各工法をどのような環境で施工しているか、来場者にわかりやすく展示できたと思います。昨年の奥のブースとは違い、来場者からみて真正面に見ることができるブースとなったので、多くの人に見て頂けたと思います。

大正・港オープンファクトリーに参加

平成29年10月28日　主催：大正・港ものづくり事業実行委員会

「普段なかなか見ることが出来ない“ものづくり”の工場を見学しませんか？」という趣旨のもと、大正区・港区内の色々な企業が現場を一斉に開放するこのイベントに当社も参加。
当日は雨が降り、あいにくの肌寒い天気となってしまいましたが、多くの方々にご来場いただき、約1時間という短い時間ではありましたが、建設業（土木工事）とはどういった業界なのか？から杭打設の方法、杭材料のご説明、イベントの終盤には、恒例の実機操作体験を行い、大型クローラクレーンの操作を指導員立会の下、体験していただきました。

高校生の会社見学・インターンシップ体験に協力

平成28年より適時　大阪市立泉尾工業高等学校、大阪府立大正高等学校、大阪体育大学浪商高等学校のみなさん

就職希望者をいくつかのコースに分けて会社見学する一環で、大正高校より６名、浪商高等学校より当１３名が会社見学に来訪されました。1 時間という短い時間ではありましたが、当日は、会議室において会社説明及び各部門の職務内容の説明を行い、その後工事管理部の見学、土木事業部の見学、そして第一機材センターにおいてアルファーシステム杭打機、油圧式杭圧入引抜機の実演という流れで見学いただきました。
また泉尾工業高等校からは生徒３名がインターンシップ体験に来訪。朝のラジオ体操から始まり、朝礼ミーティングの参加、業務の内容説明の後、指導員の下、実機操作も体験。午後からは水上施工現場を２箇所見学し、なかなか見る機会の無い稼働中の現場の空気を味わっていただきました。

泉尾工業インターンシップ

泉尾工業インターンシップ

泉尾工業インターンシップ

泉尾工業インターンシップ

大正高校来訪

大正高校来訪

大体大浪商高校来訪

大体大浪商高校来訪

プロバスケットボールB.LEAGUE1部、
大阪エヴェッサのオフィシャルTOPパートナーとなりました。

OSAKA EVESSA
©OSAKA EVESSA
OFFICIAL PARTNER

大阪発の巨大音楽フェス
「ミュージックサーカス’18」に協賛しております。

MUSIC CIRCUS'18
DANCE MUSIC FESTIVAL

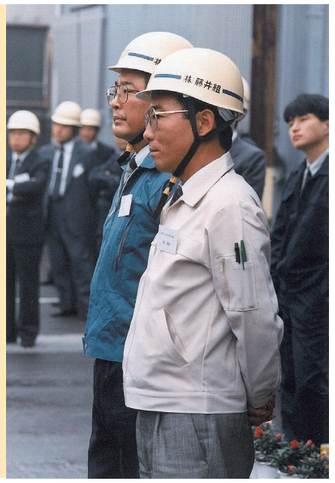
エフエム大阪主催、飲酒運転撲滅のための
プロジェクト(SDD)のパートナーになりました。

SDD STOP! DRUNK DRIVING PROJECT
® FM OHI

「2025国際博覧会を日本、関西・大阪へ」
誘致活動オフィシャルパートナーとなりました。

OSAKA-KANSAI/JAPAN
EXPO2025

思い出をたずねて



1991
淡路島

1992
小豆島

1993
志摩

1〜3: 1988年の写真　4〜7: 1998年正月に社長宅にてパーティー　8：1999年頃　9：年代不詳

株式会社 藤井組
専務取締役
木村 純一

編集後記

今回の設立55周年の社史発刊において、社長よりその編集を一任された際には、正直戸惑いと不安しかありませんでした。自身が藤井組に入社して23年目に対し、その倍以上の長い歴史をどのようにして調べていこうかと色々と考えました。しかしベテランの社員や退職された方々から色々な話を聞くことができ、また貴重な資料を提供していただいたおかげで情報収集作業は順調に進めることができました。

初めて社史の編纂に携わったことで、藤井組の長い歴史を知ることができ、改めて会社に対する思いが強くなった次第です。先人達が日々汗を流し、ものづくりに情熱を捧げてきた事、技術力向上、研究開発にたゆまぬ努力をしてきた事、現場技術者の皆さんが昼夜問わず全国の現場の最前線で安全に且つプロの技で誇りを持って杭打ち作業をされた事など、本当に感銘を受けましたし、自身も又、更なる会社発展のために日々精進しなければと痛感いたしました。

当社はまだまだ現在進行形の会社です。同業他社が多数ある杭打ち業界の中で、いかに藤井組ブランドを広めるか、仕事に誇りを持つ社員を集め、難工事に対応できる特殊機械設備を整えるか、他社との差別化を図ることにより藤井組は更なる発展を目指すものであり、森社長の下、全員が強い団結力をもって業務に取り組んでいく必要があります。その意味でも本誌を社員一同が目にして藤井組の歴史を知ることにより、みんなが同じベクトルを向いて100年企業に進んでいけるものと思います。

最後に、本誌編集にあたり御協力をいただきました皆様方に心より御礼申し上げます。

本社大規模改修2019年春完成予定

イメージキャラクターの銀隼（ぎんしゅん）